

授業展開例（国語）

- 1 学 年 第2学年
- 2 単元名 すきな お話を よもう 「スイミー」
- 3 単元について

この教材は、楽しく空想的・幻想的で、しかもドラマチックな作品である。仲間と外見が異なるスイミーが、大きな魚によって大切な仲間を失った後、また仲間を見つけ、今度は協力して大きな魚を追い出し、楽しく海の生活を続けていくというお話である。知恵と勇気を持って元気に生きていくスイミーは児童にとっての憧れであり、かっこいいヒーローでもある。「お話の世界に遊べる子に。」ということをお願いして本単元を指導したい。

また、本作品は叙述が詩的で、体言止め・倒置法・比喩などが駆使されており、表現上の特色を生かした学習活動を組み立てることができる。

指導にあたっては、ことばを手がかりに、スイミーになりきって、大きな魚から逃げるスリルを味わったり、独りぼっちになりながらも美しい海に感動したり、赤い魚たちと協力して大きな魚を追い出した喜びを味わったりして、表現上の特色を生かした学習を組み立てたい。そのために、スイミーのペープサートや海の背景画などを準備するとともに、音読カードの効果的な活用も考えたい。また、動作化も取り入れ、登場人物がそれぞれのよさを生かし、持ち場を守っていることに気づかせたい。

さらに、この学習から、ほかのさまざまなお話や絵本を読む活動につなげていきたい。教室には、レオ・レオニの絵本やマークス・フィスター、神沢利子などの絵本を準備しておきたい。

4 主たる単元目標

- ・ 場面の様子を想像しながら読み進め、友達との読みの交流を通して、感じ方や考え方の違いに気付き、自分の読みを見つめなおそうとしている。[国語への関心・意欲・態度]
- ・ 好きな絵本を探して読み、友達と紹介し合うことができるようにする。[話す、聞く能力]
- ・ 場面の様子を想像しながら読み、お話の楽しさを味わう。[読む能力]
- ・ 片仮名で書く語を正確に使うことができる。[言語事項]

【普遍的視点】

自他の理解と尊重

- ・ 自分と友だちの違いに気づくとともに、お互いの良さを認め合うことができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
興味を持って音読に取り組み、家の人への紹介の文章を書くとともに、積極的に好きな絵本を探して読もうとする。	読んだ絵本のおもしろさについて、友達とわかりやすく話すとともに、友達が伝えたい内容を聞いている。	音読カードの効果的な活用、動作化などを通して、想像を広げながら読んでいる。	平仮名及び片仮名を正しく書くとともに、文章の中で、片仮名で書く語を正しく使っている。

6 指導と評価の計画（全11時間扱い）

次	学習内容（時数）	評価						
		関	話	書	読	言	評価規準	評価方法
一次	全文を読み、物語のあらすじをつかみ、学習のめあてをもつ。（1時間）						物語の楽しさを家族に伝えるために、意欲的に学習しようとする。	観察 ノート
二次 （本時 6/11時）	ペープサートを用い、場面や動きを考えながら本文を読む。（7時間） ・ 第1場面を読み、話し合う。 [兄弟たちと楽しく暮らしている場面] ・ 第2場面を読み、話し合う。 [まぐろから逃げ出す場面] ・ 第3場面を読み、表現のおもしろさを味わう。 [海の底の場面] ・ 第4場面を読み、スイミーたちの気持ちを想像する。 [赤い魚たちとの出会いの場面] ・ 第5場面を読み、スイミーたちの気持ちを想像する。（本時） [自由な海へ泳ぎ出す場面]						表現のおもしろさに気づくとともに、スイミーの気持ちを想像する。 お互いの気づきや感じたことを交流し、それぞれの良さに気づく。	発言 ノート ワークシート
三次	他の絵本等を読み、友達に紹介する。（3時間）						自分の思いをわかりやすく伝えようとする。 友達の発表のよさを考える。	観察 ノート

7 本時のねらい

- ・ みんなで魚を追い出したときのスイミーや魚たちの気持ちを想像することができる。
- ・ 「ぼくが、目になろう。」と言ったスイミーの気持ちを想像することができる。
- ・ 友達の意見に対して、受容的に受け止め、発言することができる。【コミュニケーション能力】
- ・ お互いの考えや意見の良さに気づき、相互に評価することができる。【自他の理解と尊重】

8 本時の展開

段階	主な発問	主な学習活動	指導者の支援・留意点	評価規準	評価方法
導入	最後の第5場面を読んで、魚を追い出した時のスイミーや魚たちの気持ちを考えましょう。	第5場面を音読みし、感想を発表する。	前時に学習した部分からのつながりを考えさせながら、音読させる。		
展開	<p>スイミーたちは、大きな魚のように泳げるようになるためにどんなことをしたでしょう。</p> <p>どうしてスイミーは「ぼくが、目になるろう。」と言ったのでしょうか。</p>	<p>泳げるようになるまでのスイミーたちの様子を考える。</p> <p>「ぼくが、目になるろう。」と言ったスイミーの気持ちを想像する。</p>	<p>前時からつながるように、小さな魚の兄弟たちが上手に泳げるように練習したことを読み取らせる。</p> <p>「ぼくが、目になるろう。」の後に続く言葉を自由に想像させ、ワークシートに記入させることで、スイミーの気持ちを膨らませる。</p> <p>お互いの考えを交流し合う中で、それぞれの良さに気づかせる。</p>	<p>スイミーたちの様子を正しく読み取っている。</p> <p>スイミーが、自分の特徴を生かして、持ち場を考えている。</p> <p>お互いの意見の良さに気づいている。</p>	<p>観察発表</p> <p>ワークシート ノート 発表</p>
終末	大きな魚を追い出したスイミーたちの気持ちを考えましょう。	スイミーたちの気持ちを想像する。	スイミーたちになったつもりで、最後の出来事についての気持ちを話させる。		